

# NBF

公益財団法人 日本舞踊振興財団

Information

No. **63**  
2024 NEW YEAR

## 目次

- ▶ 名手訪問 / 対談 平田 真純 氏  
(待乳山 本龍院住職)
- ▶ 日本舞踊誌上講座 / 日本舞踊の歴史を振り返る③⑨  
— 勸進帳の系譜③ —  
東京大学名誉教授 古井戸 秀夫 氏
- ▶ 特別会員御芳名
- ▶ NBF活動報告・行事予定
- ▶ 故 西川扇藏に寄せて / 丸茂 美恵子 氏



## 名手訪問

— 対談 —

平田 真純 (待乳山 本龍院 住職)

西川 均  
(公益財団法人 日本舞踊振興財団 業務執行理事)

[敬称略]



西川 本日は本龍院の歴史や寺院にまつわるエピソードなどをお伺いできたらと思っています。

我々の古典芸能で、〈待乳山〉という名称は歌詞の中に結構出てくるので馴染みのある言葉なんです。実際お伺して、ここがあのだ〈待乳山〉か、と思いました。Googleで調べてみたところ、10mくらいで、我々が一般に考える山ではなくてちょっとした丘ですよ。踊りのなかで、手をかざして待乳山を眺めるといふ振りが出てくるので、待乳山は見上げるものではないのだと発見がありました。



待乳山聖天 本龍院

住職 江戸時代の浮世絵を見ると、現在よりももう少し山らしい佇まいですけども、低山には違いありません。視界の一部に納まるような親しみやすいお山であったと思います。そもそもこのお山の起源は大変古くお山が一夜にして地中から湧き上

り、その時、金龍が天より舞い降りて山を廻り守護したという伝説が残っています。この辺りは今は目の前を隅田川が流れていますが、当時は海でした。江戸湾(東京湾)の入り江で干潟みたいな所だったんだと思います。そこに何らかの天変地異があって隆起したんじゃないですかね。想像ですけれども。



東都名所真乳山之図 歌川広重(1818~1844)

西川 一夜にして小高い丘が出来上がったことで、それをきっと昔の人は神仏のちからによるものと信仰に結びつけたのかもしれない。

住職 そうですね龍神様のお力も感じただけでしょうね。縁起に戻ると、開山から6年後の西暦601年の夏、あたり一帯が大干ばつに見舞われたとき、十一面観世音菩薩が悲愍の目を開き、〈大聖歡喜天〉のお姿となってこの山に降臨されて

苦しむ民を救ったと伝えられていて、それが本尊の大聖歎喜天すなわち聖天様が当山に鎮座された起源といわれています。霊山として崇められていたんだと思います。

その後の古代から中世の待乳山の記録は、戦災等であまり残ってはいないんですけども、この付近の史実として、頼朝の隅田川渡河が有名です。1.5キロ上流の現在の石浜神社のあたりに当時は港があり、そこが中世くらいには水陸交通の要所で物流の拠点でありました。この地域は秩父平氏の流れをくむ江戸氏が支配していて、江戸氏は大福長者と呼ばれ強大な勢力を誇っていました。西暦1180年に石橋山で頼朝が一旦敗れたあと、再び挙兵して西に向かう時に、石浜の対岸に着き、そこで敵対していた江戸氏の当主、江戸太郎重長の協力を何とか取り付け、1000艘の船を並べて渡河したことが〈吾妻鏡〉や〈義経記〉に記されています。船は関西などからの商船であったようですが、1000艘も並べさせることができるということから、かなりの財力があつたと推測できます。そういうことから、当時この辺は地方都市の中心だったようです。小高い待乳山には常夜灯もあり、船の目印になっていたようです。数万の軍勢が待乳山を左手に見ながら進軍する様子を想像すると、歴史のロマンを感じます。その後も足利尊氏と新田が石浜で合戦したり、あと太田道灌は隅田川に舟を浮かべて宴を開いたという記録も残っています。江戸以前からそこそこ名の有る所で、奈良時代、平安時代の和歌も結構沢山残っています。ただ、関西の紀伊の国の方でも「ま

つちやま」という名の山があるのでどちらなのか、という疑問が残るものもあるんですけども。ただ在原業平が『名にしおはば いざこととわん 宮こ鳥 わがおもふ人は ありやなしや』という歌を残していて、昔はこの辺り一帯が都の人たちにも知られる観光地だったのかもしれませんが。

その後江戸時代になってから幕府による埋め立てが進み、運河がめぐられ、物流の拠点は江戸城の周辺に移ったので、この辺の地域ではそういった役割はなくなりました。ただ景勝地であることには変わりなく、特に待乳山の山上からは向島を一望でき、天気良ければ房総の方まで見渡せました。

また今は本堂の裏は暗渠で公園になっていますが、以前は山谷堀という石神井川からつながる運河になっておりまして、隅田川の合流口には今戸橋が架かっていました。

歌川広重などの浮世絵では、待乳山と山谷堀と今戸橋の3つがこの地のシンボルとなっていて、バランスの良い風景がうかがわれます。雪景色とか月見の名所としても有名でした。境内には広重の絵にも描かれている、泥土を固めて瓦をのせた江戸時代の〈築地塀〉が今も残っています。

9月20日が開山の日で、記念法会が行われるんですけども、江戸の年中行事には必ず記載されていました。

西川 そうですね。この辺りは観光だけでなく文化の中心でもあったと思います。先ほどお聖天さまへお参りさせて頂いたんですけども、柏手は打ってよいものなのではないでしょうか。



**住職** 打ってもよいと私は思います。もちろんここはお寺ですから、法要やご信徒のお勤めなどのときは拍手はせず合掌で行いますが。

待乳山は、日本古来の神々や他宗教の神を仏教に取り込んだ神仏習合の考え方が色濃く残るお寺だと思えます。鳥居に近い山門や、境内に神楽殿があったりと神社を感じさせるような雰囲気も一部あります。江戸時代の図会なんかを見ますと、本堂は「しやうてんぐわ聖天宮」とか「しやうてんじや聖天社」と書いてあり、下の方の庫裏は「べつとうほんりゅういん別当本龍院」と書いてあります。十一面観音様の化身である神様を祀る聖天宮を浅草寺別当の本龍院が司る仏閣ということになりますね。明治の神仏分離令が出されたときは、鳥居があったことなどから政府の役人から、ここは神社であると判断をされそうになりましたが、当時の住職や浅草寺の学僧の申し立てにより、寺院として存続したそうです。

ということで、神社様式の二拝二拍手一拝はしなくてよいと思えますが、各自のお参りのときは、パンパンと打っても差し支えないというのが私の考えです。



**西川** 私は仏教徒というほど信心深くはないですけども、お墓があってそこにご先祖様をおまつりして、家の中には仏壇も神棚もあってという生活で、日本の家庭の大半が同じような環境なのではないかと思えます。お正月には近くの神社に行って、氏神様にお参りする。お葬式はお寺さんで。この間亡くなったうちの父なんかは、晩年お墓参りへ行ってもお墓の前で拍手を打っていました。日本

人的なのかな、なんて思いながら見ていましたけど。



**住職** こちらは仏教の中でも密教のお寺とってよいかと思えますが、手を叩くという作法は実は密教にはありません。その音で周囲を浄めるという意味もあるんですね。それに手を叩くと本当に天に向かって合図をして呼んでいるみたいな感じがしますよね。祈るとは気持ちのものですから気持ちが入らないと意味がありません。なやまかんしこちらの本尊の聖天様のルーツは毘那夜伽神というインドの神様で、十一面観音様のお導きで人々を救う仏教の守護神である聖天様となります。密教ではすべての根本である大日如来様を中心にいろんな役割を持った仏様神様がいらっしやいます。聖天様は私たちの身近な願いを聞いてくださる役目をお持ちですが、その御利益のバックボーンには十一面観音様すなわち仏の教えがあります。どんな願いでも、正しい方向へ導いてくださるということです。神仏習合の真骨頂ですね。

そういう考えを広げると、私たち日本人は何を拜んでも、何に手を合わせても有意義ということになりますよね。



**西川** まつちやましやうてん待乳山聖天といえ、1月7日の「大根まつり」も有名ですね。大根と中着が象徴となったのはいつ頃からなのでしょう？



**住職** 聖天様のルーツであるインドの毘那夜伽神には、らふくこん蘿蔔根という日本でのところの大根と、かんきだん歓喜団という菓子を持った像が多くみられます。歓喜団はその形と信仰的意味合いが


ら中着袋に転化したのだと思います。ですからいつ頃からというよりは、もともとこの神のおはたらきを表すシンボルなんです。





大根というのは消化を助けて体の毒を中和するという働きがあって、心身を浄め健康にする象徴、歓喜団あるいは中着袋は財福の象徴となっています。


聖天様として仏教の神様となると、さらに深い意味を持つようになります。仏教では人間の煩悩を、むさぼりの煩悩である《貪欲》と、瞋りの煩悩である《瞋恚》、愚かさによる迷いの煩悩である《愚痴》の3つに分けています。聖天様の供養には、大根、歓喜団、お神酒を必ず供えますが、3つの煩悩に対応して大根というのは怒りの煩悩を表し、歓喜団はむさぼりの煩悩を表し、お神酒は迷いの煩悩を表しています。煩悩とはいっても私たちにとっては生きるための力でありまして、また人間の精神は常に表裏一体であって、たとえば貪る心も裏を返せば向上心につながります。瞋りも思いやりや正義感の裏返しだったりします。また愚かさも裏を返せば正しい智慧への追及につながります。この意義について、ご信徒の皆様には大根に代表さ

せてお供えいただいている形です。要するに煩惱からくる私たちの願い事や迷いごと、際限のない欲を大根とともに聖天様に預けてしまい、より良い力に返していただくという意味があるんですね。聖天様や大根に限らなくても、神さま仏さまにたとえばお賽銭を上げるとか供物を供えるとか、あるいは手を合わせるだけでも何か心がスッキリして無心になるじゃないですか。理屈で分からなくても、神様仏様に気持ちを表すと一瞬でも無心になる、それを繰り返すことで自然と自身もいい方向に向かっていく。それが信仰かなと。


 西川 僕が伺った話は、大根は食べ物の象徴。中着はお金の。だから困らない。それがいろいろ解釈を広げていくとそういうことになる訳ですよ。


 住職 分かりやすく言えば、大根は家内安全・身体健全・良縁のシンボル。中着は富・商売繁盛という一番基本的なことにご利益があるということになりますね。そしてそのご利益はさまざまな縁に助けられているのだと気づくのが大切なことなんです。

 西川 ところで大根は毎日どのくらいの本数を置いておくわけですか？


 住職 参拝者がどの位あるのかによりますが、平日で100本くらい、土日は200本くらいです。お下がりの大根は参拝の信徒さんにお持ちいただいています。お正月の三が日などは3,000本くらい上がります。このところ大根のお寺ということで有名になってまいりました。





 西川 テレビでも取り上げられていますね。1月7日の「大根まつり」での風呂吹き大根の炊き出しの手間は大変ですよ。


 住職 お寺のスタッフとともに世話人さんや有志の信者さんが準備してくださっています。「大根まつり」はもともと世話人会の発起で始まったんです。戦後、当時の住職以下お寺の方々や信徒の皆様の努力で復興を遂げ、昭和47年に信徒会館が出来て、堂塔伽藍もそろい、そろそろ何かやろうと盛り上がってきたんですね。そこで、参拝者の供える大根も多くなってきたし、なんとかそれを利用した行事ができないかと考えたというわけです。京都の大根炊きなどを見学したり、いろいろと検討を重ねて今につながる「大根まつり」を立ち上げたそうです。当時の世話人さんの中には、料理のプロもいらっしやっただけで、その時に考案されたレシピを忠実に守っています。料金をいただくかという意見もあったらしいんですけど、〈お金取るんだったら私はやらない〉という気骨のある方も多く、無償でお配りすることになったそうです。


5日、6日に大根を仕込んでふろふきに炊き上げ、6日に柚子味噌を作ります。そして7日に温め直してお出しする、そういうような流れですね。


 西川 コロナ前には「大根まつり」の日に神楽殿で奉納舞踊にお招きいただきましたが、参道に沢山の人が出て、これからこの人達にふるまうのは大変だろうなと思いつつ見えていました。


 住職 「大根まつり」には2,000人以上の方がみえますからね。でもこれがないと1年は始まりません。


 西川 普段はお供えから下げた大根はどうなさるのですか。

 住職 本堂右手に小屋があってそこに置いて自由にお持ちいただいています。漬物にしてお配りしようかとも考えたんですけども、手間を考えるとそれは難しいので。

 西川 ところでお寺というのは世襲ではないわけですよね。

 住職 そうですね。世襲という決まりはありません。基本的には弟子が引き継ぐということになりますが、法類という宗派内の複数の関係寺院の同意が必要です。結果的に世襲ということはありません。

 西川 ご住職はお父様がやはりご住職でいらっしやっただけですか。

 住職 そうなんです。祖父がこの寺に小僧として入り、しょうてんさま聖天様供養の行を修め、戦後住職になりました。そして父が引き継ぎ、私は世襲的にいうとすれば三代目になります。待乳山は家族は住めない聖地で、そのため家は別だったので、お寺の子といってもあまりそういう意識がなく、いずれは自分は友人たちと同じように会社で働くだらうと思ってたくらいです。しかし正月など忙しい時は、ここや本山の浅草寺でお手伝いをしていたので、自然と導かれるようにこの道に進んだような格好です。

西川 お寺さんって、例えば子供がいない、子供が後を継がないとなった場合は、跡継ぎを探すことになるのですか。

住職 そうですね。いろんなご縁を通して弟子を取るということになります。師匠がいなくてお坊さんにはなれませんので。

西川 こちらにも何人かお坊さんがいらっしゃるんですけども、あの方々は修行をされているのですか。

住職 皆、比叡山での修行を終えています。百日回峰行を満行した者もおります。こちらに勤めながら様々なことを学んでいます。実家が寺という者も多いです。

西川 門前の小僧ではないけれども、環境にあると自然と導かれるんですね。

住職 確かに自然とそういう風になることも多いですね。そして比叡山などで鍛えられて自覚が出てくるということになりましょうか。私は22歳のとき師匠即ち父から、お寺をやるなら比叡山で2か月間の修行をしてこいと言われ、恥ずかしい話ですが、一つの経験と考え、割と軽い気持ちで行ったんです。お寺や仏様があまりに身近だったので緊張感に欠けていたんです。私としてはそのような意識を徹底的に鍛え直されたという感覚でした。どの道を行くにも真剣勝負なんだということを教わり、その時にこの道に進もうという覚悟が決まりました。

西川 そういう経験を経てこられたご住

職だから信徒さんは親近感を持たれるでしょうね。

住職 そうですかね。でも行動が伴っているかは疑問ですけどね。

西川 ご住職の古くからのご友人は普通の生活をしてらっしゃる訳ですよ。今でもお付き合いは続いていますか。

住職 たまに会ったりはしています。できれば一般的な普通の感覚も持ち続けながら、厳しい現実にも悩まれる人々がご本尊と対峙し、ご自分を見つめなおす場所として、伝統と歴史のあるこの寺をしっかりと守っていきたいと思っています。

西川 ありがとうございます。

## PROFILE

ひらた しんじゅん

平田 真純

1957年 東京浅草生まれ

1969年 浅草寺にて得度

1979年 比叡山行院にて四度加行を満行

1982年 大正大学仏教学部仏教学科卒業

1982年4月～1983年3月

待乳山本龍院にて本尊大聖歓喜天(聖天)の供養を修行

1999年 待乳山本龍院(待乳山聖天)

住職拝命



法務・信徒指導等を通じて仏教の精神を伝える他、2013年、2015年、2017年、2019年には「浮世絵展」を開催、待乳山や隅田川周辺等の文化を紹介。



## 勸進帳の系譜 ③

東京大学名誉教授

古井戸 秀夫



『御ひいき勸進帳』<sup>かんじんちよう</sup>が書き下ろされたのは、安永二年（一七七三）十一月江戸中村座の顔見世でした。市川海老蔵こと四代目團十郎が弁慶に扮し、勸進帳を読み上げました。幕切れで、敵役の首を引っこ抜き、天水桶に入れて芋洗いにする荒事を見せたので、「芋洗い<sup>あら</sup>勸進帳<sup>かんじんちよう</sup>」と呼ばれ親しまれてきました。



(資料1)



(資料2)

歌舞伎十八番を制定した海老蔵こと七代目團十郎は、そのひ孫にあたります。『勸進帳』の創演に先立って、天保十年（一八三九）九月河原崎座の『義経千本桜』大序<sup>ほりかわやかた</sup>「堀川館」で弁慶に扮し、「芋洗い」を復活しました。このとき、芋洗いの大荒事は、白猿（海老蔵）自身の工夫だと喧伝されましたが、のちに石塚豊芥子<sup>いしづかほうかいし</sup>が『続歌舞伎年代記』で出典を指摘、「芋洗い」の原作を紹介

しました。『御ひいき勸進帳』は、「花の桜田」と讃えられた江戸っ子の狂言作者、桜田治助<sup>さくらだじすけ</sup>の代表作で、未曾有の大当たりを取りました。そのためでしょう、台本も貸本屋の写本として流布しました。無類の本好きとして知られた豊芥子は、それを読んでいたのでした。

四代目團十郎が読み上げた「勸進帳」の本文は、能『安宅』に倣ったものでした。「それ、つらつら、惟みれば」と読みはじめると、大小の鼓のあしらいになるのも、本行の通りでした。ただし、「ここに中頃、帝おわします」と東大寺の由来に掛かると、そこからは弁慶ではなく、大薩摩主膳太夫<sup>おおざつましよぜんたゆう</sup>の浄るりになり、関所の役人が勸進帳を取りにかかると、弁慶が取って投げる、立ち廻りの所作になりました。体勢を立て直して、ふたたび弁慶が「善路を翻して」と読みだすと、また、絡む敵役の腕をねじ上げ、大薩摩のへ天も響けと読み上げたり」で勸進帳を戴くのでした。勸進帳を読みながらの、丁々発止の遣り取りを参考にしたのでしょいか、ひ孫にあたる海老蔵は、歌舞伎十八番の『勸進帳』で、それを富樫との気味合いに活かしたのでした。

『御ひいき勸進帳』では、富樫の他に斎藤次という敵役を出し、関守を二



人にしました。昼の間は斎藤次の役目、夜になると富樫と、その責任を分担。能の昼間の出来事を、夜に仕立て直しました。敵役の関守に、強力は義経であろうと疑われ、弁慶が金剛杖で打擲、武士の情けで富樫が見逃すことになる、この設定もそのまま十八番の『勸進帳』に応用されました。

富樫に扮したのは、五代目市川團十郎でした。團十郎の富樫は、奥州二本松十万七百萬石の若き太守、丹羽五郎左衛門長貴公に見立てられました。火事だということと愛馬にまたがり、われ先に繰り出した、火事大名でした。台本のト書きで指定された、富樫の高提灯の紋は「犬洲流し」でした。珍しい十字架の紋様は、大紋の衣裳にも流用、その姿は売り出された芝居絵本にも描かれました。因みに斎藤次の紋は「窠の紋」。木瓜の図案は、江戸町奉行の曲淵景漸の当て込みでした。春風駘蕩とした古き江戸の名残でした。昭和のはじめに二代目市川猿之助（のちの猿翁）が復活。それをうけて、昭和四十三年の正月公演として国立劇場でも、通し狂言として復活。弁慶はじめ三役に主演した二代目尾上松緑は、国立劇場のお正月を象徴する顔になりました。

弁慶には「一度っきり」が二つありました。ひとつは女性。もうひとつは一度しか泣いたことがないという伝説でした。「芋洗い」で取り上げたのは後者。それもほんとうに泣いたのではなく、ウソ泣きでした。斎藤次に疑われ、縄で縛られて、居残った弁慶を関所の役人がさいなみました。「甘酒を振る舞いましょう」といっては、蹴り倒し、さんざんになぶられても、「弁慶では、ないものを」としらを切りました。めそめそと泣く姿を見て、敵役は

「コレ坊よ、わりや泣くか、ヤレ可愛や」となだめては、また殴ります。義経らも、もう大丈夫だろう、と頃合いを見て、武蔵坊弁慶だと名乗って力むと、縛り縄は切れました。弁慶の扮装は、長唄『安宅の松』の羽左衛門と同じで、毬栗頭の山伏。隈取を取るのも、同じでした。

衣の色が鮮やかな朱色になったことが「芋洗い」の特徴でした。「芋」は、瘡瘡の異名で、朱色は瘡瘡よけのまじないでした。紅摺りの鐘馗や為朝などは、「瘡瘡絵」と呼ばれ、子供たちのお守りになりました。初演の年、安永二年には三月の末ごろから疫病が流行、五月までに、およそ十九万人が疫死した、と記録されています。前の年には、江戸の三大火災に数えられた、目黒行人坂の大火がありました。火はおさまっても、江戸では疫病、地方では冷害、旱魃。元号の明和九年は改元になり、安永元年になりました。「めいわく（明和九）も昨日を限り今日よりは寿命ひさしき安永のとし」という落首もでしたが、それでも、また疫病は流行するのです。朱の衣を身にまとった、弁慶の「芋洗い」は疫病退散の祈りでもあったのです。



(資料3)

『御ひいき勸進帳 安宅の関』（資料1）浅草松竹座 昭和2(1927)年1月上演。(資料2) 東京劇場 昭和15(1940)年3月上演。(資料3) 東京劇場 昭和15(1940)年3月上演。／所蔵場所：国立劇場／独立行政法人日本芸術文化振興会が運営するサイト「文化デジタルライブラリー」参照。



日本舞踊振興財団では、特別賛助会員制度を設け、  
下記の方々にご支援をいただいております。  
是非ご賛同お願い申し上げます。

- 
- 会費 1口 10万円(1年間)
  - 特典 会報のご送付  
会報・公演プログラム等にご芳名掲載  
財団主催イベントにご招待
- 



- |                          |                              |
|--------------------------|------------------------------|
| 飯田 信子 (飯田不動産 代表)         | 東京信用金庫 (理事長 半澤 進)            |
| 飯田 良枝                    | (株)ビデオフォトサイトウ (代表取締役 海老原 利明) |
| (有)かつら大阪屋                | (株)ホテルオークラ東京                 |
| 歌舞伎座舞台(株) (代表取締役 安藤 拓孝)  | 藪本 俊一 ((株)古美術藪本 代表取締役)       |
| (有)ギャラリー竹柳堂 (代表取締役 藤澤 繁) | 山本化学工業(株) (代表取締役 山本 富造)      |
| 松竹衣裳(株) (代表取締役 武中 雅人)    | (株)吉 岡 (代表取締役 清水 喜重郎)        |
| (株)瀧川峰晴堂 (代表取締役 瀧川 明行)   |                              |

[敬称略]



財団の趣旨にご賛同いただける方は財団事務所までご連絡ください。  
特別会員についてご説明します。その上で、ご希望の方には申し込み  
書類をお送りさせていただきます。

財団事務局 TEL03-3354-5496



## NBF活動報告

### 新宿区「こども文化体験プログラム」 —日本舞踊—

日 時：令和5年8月1日(火)～8月3日(木)  
会 場：新宿区四谷地域センター 多目的ホール  
内 容：新宿区主催のこども向けの体験教室  
主 催：新宿区

### 新宿区日本舞踊鑑賞教室

日 時：令和5年10月19日(木)  
会 場：新宿区立大久保小学校 体育館  
内 容：5年生を対象に日本舞踊についての簡単な  
レクチャーを行い、その後日本舞踊「供奴」  
「潮来出島」の一部を上演した。  
少人数の学校なので児童同士が協力し合い、  
楽しい体験授業となった。  
主 催：公益財団法人日本舞踊振興財団

### 新宿区日本舞踊鑑賞教室

日 時：令和5年12月14日(木)  
会 場：新宿区立西新宿小学校 体育館  
内 容：5年生を対象に日本舞踊についての簡単な  
レクチャーを行い、その後日本舞踊「供奴」  
「潮来出島」の一部を上演、挨拶の仕方等の  
体験を行った。  
主 催：公益財団法人日本舞踊振興財団

## NBF行事予定

### 文化庁伝統文化親子教室 —新宿区日本舞踊こども教室—

日 時：令和5年10月9日～令和6年1月13日  
会 場：新宿区戸塚地域センター  
新宿区四谷地域センター 多目的ホール  
内 容：日本舞踊の基本的な動作、挨拶の仕方を  
習得。その後、概ね1曲を仕上げよう  
稽古する。  
主 催：公益財団法人日本舞踊振興財団

### 第56回講演会

日 時：令和6年1月22日(月)  
会 場：東京信用金庫本店  
講 師：日本大学大学院芸術学研究所舞台芸術  
専攻主任 教授 小林直弥氏  
内 容：演題「日本舞踊で覗く江戸と  
その暮らし、その魅力」  
主 催：公益財団法人日本舞踊振興財団

### 新宿区日本舞踊鑑賞教室

日 時：令和6年2月10日(土)  
会 場：新宿区立四谷小学校 体育館  
内 容：5年生を対象に日本舞踊についての  
簡単なレクチャーを行い、その後  
日本舞踊の一部を上演する。  
主 催：公益財団法人日本舞踊振興財団

### 幼稚園おどり教室

日 時：令和6年2月29日(木)  
会 場：東洋英和幼稚園  
内 容：幼稚園児を対象として普段手にすること  
の少ない邦楽器に触れ、日本舞踊に親し  
んでもらいその後、子どもに興味を持て  
るような演目を上演する。  
主 催：公益財団法人日本舞踊振興財団





## 西川扇藏名誉会長の偉業

桜美林大学特任教授

丸茂 美恵子



この夏、西川扇藏名誉会長が天寿を全うされました。

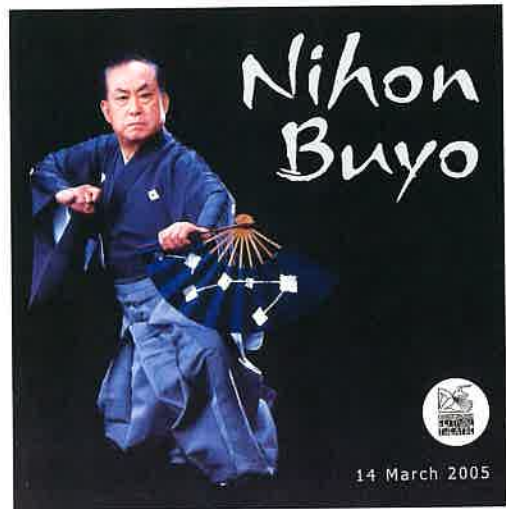
いま名誉会長と当財団について想いを馳せますと、まず感銘を受けた言葉が思い出されます。「踊りにはピラミッドのように広い底辺が必要だ」と語られた言葉です。つまり、その底辺が育たないと日本舞踊の将来はない、それを実践するためにと平成二年三月、当財団（当時 財団法人日本舞踊振興財団）を設立し、理事長に就任されました。財団の構想は、十数年来持ち続け、多くの人の意見を聞き、温めてきたものであると伺っております。今日も当財団が子供を対象とした、日本舞踊の普及・啓蒙活動に力を注ぐ事業を一つの柱に据えているのは設立者・西川扇藏名誉会長のこの信念が礎となっているからにほかなりません。対象は小学生が主です。義務教育機関において誰でも日本舞踊に触れられる公平な機会を設けたことは偉大な社会貢献事業と言えますよう。

当財団がもう一つ柱に据えている事業が国際交流です。海外公演では基本的に古典・創作・素踊りの3パターンを紹介する方針を立て、その方針に則った演目を世界各国へ提供してきました。とりわけ大韓民国との交流には意義深い成果がみられます。金大中大統領（当時）による

日本の大衆文化開放政策に合わせて、いち早くレクチャー・デモンストレーションを活発に行ってまいりました。それは、平成十二年十二月に韓国の文化財庁の呼びかけで当財団が共催した日韓の重要無形文化財保持者（各個認定）による競演「日韓パートナーシップ無形文化財大饗宴」の実現に繋がり、日韓の友好を築きました。その時、名誉会長（当時 理事長）は西川扇藏という日本舞踊の人間国宝として長唄『島の千歳』を上演されたのが、戦後初めて日本舞踊の真髄を隣国で披露したことになります。

今から三十余年前、流派の統帥であられた一日本舞踊家が個人の利益追求を目的とせず、財団という法人組織を設立し、日本舞踊の発展・振興に寄与するための行動を興しました。その原動力は冒頭で紹介した言葉に秘められているとわたくしは思っております。幼くして西川流宗家の重責を担われてきた前半生の忍耐と努力が基になり、日本舞踊の将来を見据える熱い眼差しとなったのに違いありません。名誉会長が成し遂げられた偉業をいま振り返り、その偉業を起点とし、残された人々は手を携えて日本舞踊の将来にむけて歩むことが名誉会長への手向けとなりましょう。合掌。

（令和5年12月20日記）



A l'occasion de l'ouverture du Bureau Consulaire du Japon à Lyon

**日本舞踊**  
NIHON BUYO  
Danse traditionnelle japonaise

Trésor National Vivant  
Nishikawa Senzô  
et 12 autres danseurs avec 12 musiciens.

Samedi 1<sup>er</sup> mars 2003  
Théâtre de La Croix-Rouge

Mardi 4, mercredi 5 mars 2003  
Maison de la culture du Japon à Paris

NIHON BUYO

JAPANESE TRADITIONAL DANCE

LONDON  
EDINBURGH  
PARIS

「日本舞踊イギリス・フランス公演」  
2003.3.11(Fri)-17(Sat) French Theatre / London  
2003.3.14(Sun) Edinburgh Festival Theatre / Edinburgh  
2003.3.17(Fri)-18(Fri) La Maison des Cultures du Japon / Paris

Prod. <財団> 日本文化振興会 03-5561-1196 <http://www.nihonbuyo.com>





公益財団法人 日本舞踊振興財団  
「NBF」 No.63

発行 公益財団法人 日本舞踊振興財団  
〒162-0066 東京都新宿区市谷台町8番12号

発行日 令和6年1月

ホームページはこちらから ▶▶▶  
<https://nihonbuyo.or.jp>





公益財団法人 **日本舞踊振興財団**

〒162-0066 東京都新宿区市谷台町8番12号

TEL:03-3354-5496

FAX:03-3353-5634

<https://nihonbuyo.or.jp>

E-mail:office@nihonbuyo.or.jp

